

冬に多い

猫ちゃんの下部尿路疾患

下部尿路（膀胱から尿道の出口まで）における病気のことを下部尿路疾患といいます。

特に3〜5才のオス猫に多いのですが、膀胱や尿道に砂や石が形成され、たまってしまいう「尿石症」という病気があります。

尿石ができてしまうと膀胱、尿道が傷つけられ血尿したり、それが詰まって排尿困難になったりします。特に尿道に詰まり、尿が全くでなくなると腎機能が低下し、非常に危険で命にもかかります。



① 細菌感染により、弱酸性である尿の症状（PH）が変化しアルカリ性の尿になると※ストルバイト尿石がしやすい。

② 尿中のミネラルなどの増加で、それを材料にした尿石ができやすくなる。

③ 水を飲む量が少なくなったり、糞便への水分排泄が多くなったりして尿量が減り、濃度が濃くなると尿石がしやすい。

◆ 形成される尿石には
「リン酸アンモニウム」
「マグネシウム（※ストルバイト）」
「シュウ酸カルシウム」
「尿酸アンモニウム」

などがあります。



トイレを出たり入ったりを繰り返すが、おしっこがでていなかったり、少量ずつを何回もしたり、おしっこに血が混じったりします。

ひどくなると膀胱が大きく膨らみ、痛みができて食餌も水もとれなくなり、衰弱してきます。それによって腎不全をひきおこし尿毒症になります。

さらに、そのまま放置すると脱水、嘔吐、低体温で死にいたりします。



食餌管理

・尿が弱酸性になるような組織の食餌
・マグネシウム、カルシウムが適度に制限された食餌

尿量を多くするため

水をたくさん飲ませる

・いつでも清潔で新鮮な水が飲める環境を作っておける

トイレを清潔に保つ

・猫ちゃんはとても神経質でキレイ好きなので、トイレの管理も大切です。トイレの数も頭数＋1個（2匹なら3個）置いてあげるとよいでしょう。